

2. 沿岸漁業高度化支援事業

荒井裕崎・高木信夫・舛田大作・幟川亜希子

漁業所得の向上を目指した効率的・省エネ型漁業と水産資源の持続的利用を促進するため、地域重要資源の生物学的知見に加え、移動・回遊等の生態把握により資源評価および漁海況予報の精度向上等提供情報の充実を図るため、平成26年度から漁海況情報提供強化事業と地域型資源管理予測技術開発試験を統合・拡充し実施している。

I . 沿岸定線調査

沿岸域の海況情報の収集分析を目的とし、昭和38年以降全国規模で行われている沿岸定線調査を実施した。

方法

図1に示す五島灘・五島西沖の12定点の海洋観測を調査船鶴丸(99トン, 956kW)により、平成27年4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12月および平成28年1, 2, 3月の計12回実施した。

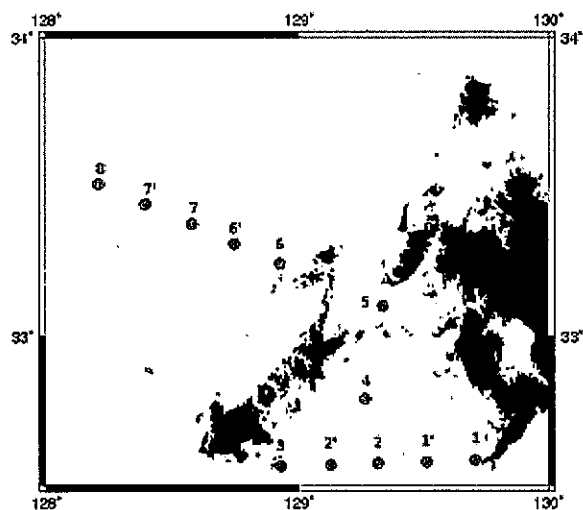


図1 調査海域

結果

五島灘の水温は、概ね平年と比較すると、4月は高

め、11, 2月は平年並み、6, 8月は低めであった。五島西沖の水温は、平年と比較すると、4, 6月は高め、8月は平年並み、11月は低めであった。

(5, 7, 9, 10, 12, 1月は平年値なし。)

まとめ

五島灘および五島西沖の水温は夏期に高め傾向で推移した。

(担当：荒井)

II . 漁況調査

県内の漁況を把握し、漁業関係者に情報を迅速に提供するため、県内標本漁協から漁獲データを収集した。

方法

長崎魚市および県内標本漁協に対し、漁獲量の聞き取り調査を行った。

結果

西彼標本漁協の平成27年1～12月の中小型まき網魚種別水揚量は、マアジは1012トンで前年の140%、サバは848トンで前年の101%、カタクチイワシは33トンで前年の157%、ウルメイワシは733トンで前年の191%であった。五島標本漁協の平成27年1～12月の中小型まき網魚種別水揚量は、マアジは418トンで前年の135%、サバは166トンで前年の112%、ウルメイワシは40トンで前年の26%であった。北松標本漁協の平成27年1～12月の中小型まき網魚種別水揚量は、マアジは575トンで前年の20%、サバは2.8千トンで前年の98%、カタクチイワシは7.2千トンで前年の93%、ウルメイワシは3.2千トンで前年の107%であった。

まとめ

中小型まき網漁業による水揚量は、地区により増減がみられた。

(担当：幟川)

Ⅲ．海底水温リアルタイム情報提供システムの構築

沿岸漁業での漁場探索にかかる労力軽減など操業の効率化を図るため、底棲性の強いマアジの漁場形成要因の検討に取り組んでおり、その中で標本漁船が日々の操業時に取得した漁場の海底水温(海底付近の底層水温)をリアルタイムで情報提供できるシステム構築を行った。

方法

位置や水温の情報を記録し送信することができる機器が搭載された漁船からのデータの収集、海底水温情報の作成・提供の一連の手順を自動化したシステムを構築した(図2)。

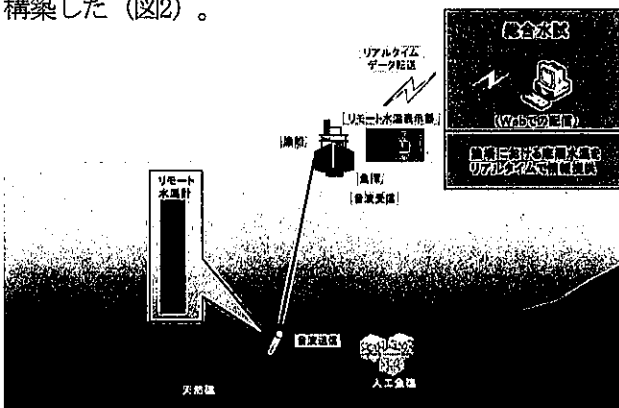


図2 海底水温リアルタイム情報提供システム

結果

漁場の海底水温をリアルタイムで情報提供することができた(図3)。この情報は、マアジのほか底棲性魚介類の分布や移動に大きく影響すると考えられるため、これらを対象とした漁業操業の一助となることを期待したい。

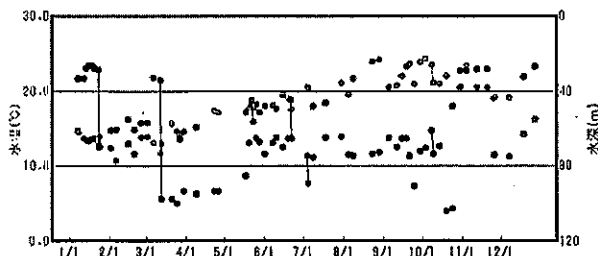


図3 海底水温情報(平成27年)

(担当: 荒井・高木)

Ⅳ．情報提供

前述の調査分析結果および有明海長崎県沿岸観測(図4)の結果を、漁業者に提供するためFAX, 郵送, インターネットホームページおよび新聞紙上により広報した。

- ・調査船調査速報(12回)
- ・有明海長崎県沿岸水温情報(11回)
- ・平成27年度トビウオ未成魚漁況予報
- ・平成27年度五島海区アオリイカ漁況予報
- ・平成27年度対馬海区ヨコワ漁況予報
- ・平成27年度冬季対馬・壱岐スルメイカ漁況予報
- ・平成27年度対馬暖流系アジ, サバ, イワシ漁海況長期予報(2回)
- ・漁海況週報(51回)

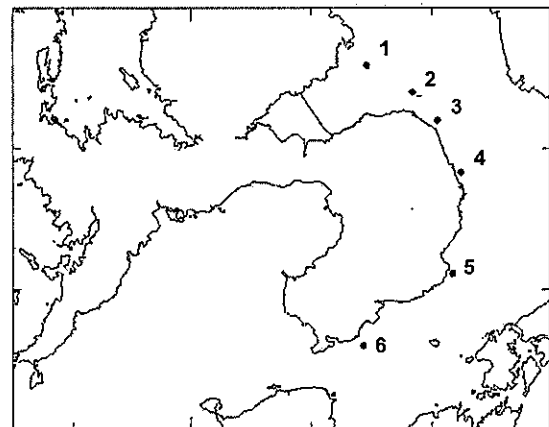


図4 有明海長崎県沿岸観測地点

(担当: 荒井)